

夏のイベント

みんなで参加しよう!

マンスリー企画展示

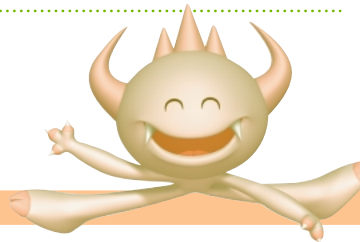
エコパルなごやでは、環境問題に積極的に取り組んでいるNPOや企業、学校などの活動を「マンスリー企画展示」として、月替わりで紹介しています。

※出展予定は、変更となる場合がありますので、ご了承ください。

6月 出展者：ゴミ・プロ
出展内容：漂着物、ゴミの標本及びゴミのパネル展示

7月 出展者：コカ・コーラセントラルジャパン
出展内容：子ども向け「リサイクルのしくみ」パネルとリサイクル製品（Tシャツ、Yシャツ、ぬいぐるみ）を展示

8月 出展者：名古屋自然観察会
出展内容：自然体験教室の運営、アサギマダラのマーケティングなどの調査研究活動をパネル展示



常設企画展示

ムーシウムとのタイアップで、2か月ごとに季節にちなんだ色々な虫たちを紹介していきます。お楽しみに!

名古屋市生活衛生センター ムーシウム

千種区若水1-2-33 TEL052-721-0191
開館時間/午前9時30分～午後4時30分 休 館 日/月曜日・祝日

「環境省こどもエコクラブ」

参加者募集

幼児から高校生までだれでも参加できる「こどもエコクラブ」。身近な地域のなかで、仲間と一緒に活動するクラブです。生き物調査や空き缶のリサイクルなど、みんなができる環境にやさしいことを考えて活動します。参加クラブには、環境の情報がついているニュースレターを送ります。

【エコクラブに入るには】

- まず数人～30人くらいの仲間を集めよう。(市内在住の小・中学生に限る。)
- みんなの活動を手伝ってくれる大人のサポーターを決めよう。
- エコパルなごやで登録用紙をもらおう!

【申し込み方法】

登録用紙に必要な事項を記入して、エコパルなごやまでお申し込みください。

【しめ切り】

とくにありません。いつでもどうぞ。

名古屋市リサイクル推進センター

名古屋市リサイクル推進センターは、不用品の交換をすすめたり、3R(リデュース:発生抑制、リユース:再使用、リサイクル:再生利用)に関する図書を出したり、みなさんが3Rを進めるためのいろいろな手助けをしています。

所在地 〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目11-15先 地下鉄上前津地下街
アクセス 地下鉄「上前津」駅 名城線北改札口を出てすぐ
電話 052-251-5300 FAX/052-251-5308
E-mail recycle@ppp.bekkoame.ne.jp URL http://www.nagoya-recycle.or.jp/
開館時間 午前10時～午後6時
休 館 日 毎週月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)



エコパルなごや 夏号

VOL.39

かんきょうをたのしく学ぶ

特集 里地里山を考えよう!

身近にある自然「私たちに教えているもの」

里地里山ってどんなところ?
かやぶき屋根の家があり、
畑や田んぼ、雑木林や小川のある風景を思いだせるかな?
そこでは、物を生産し、使う生活が見られる所なんだよ。
人と関わることによって、
自然とのバランスがとれている場所なんだ。
「エコパルなごや夏号」で、
里地里山について、楽しく学ぼう!



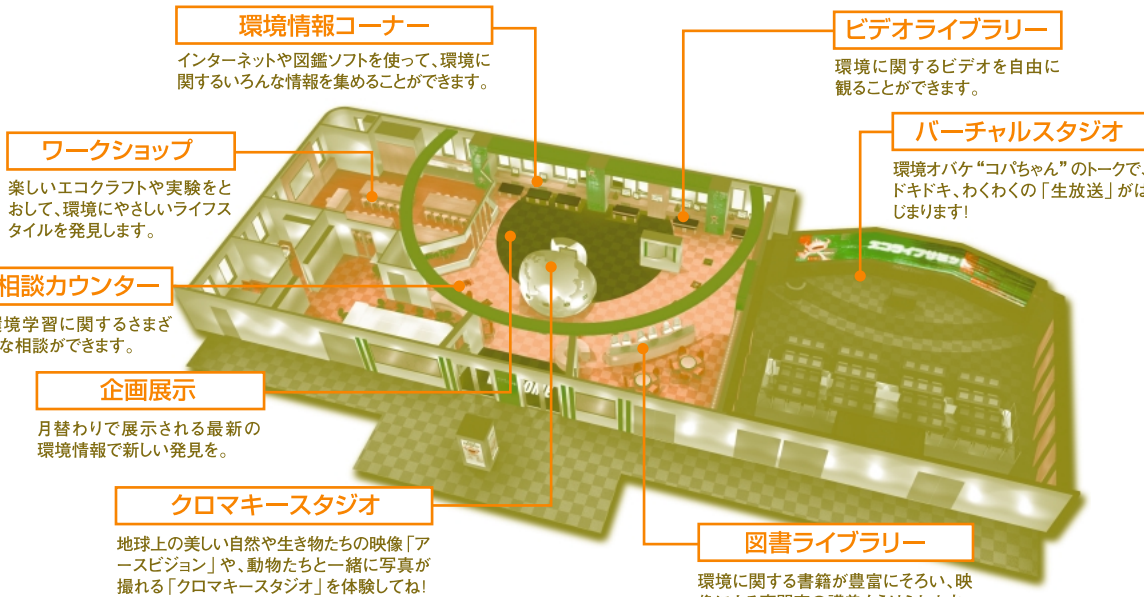
名古屋市環境学習センター

エコパルなごやを 紹介します

みんなで
あそびにきてね!

エコパルなごやは、ゲームやクイズ、工作など、いろいろな体験をしながら、環境にやさしい行動へのきっかけをつくる場所です。社会見学や団体行事など、環境学習の機会にエコパルなごやをぜひご利用ください。もちろん個人でも自由に入れます(入館は無料)。

※団体予約など、くわしくはエコパルなごやまでお問い合わせください。



環境学習センター ホームページ <http://www.ecopal.city.nagoya.jp/>



名古屋市環境学習センター エコパルなごや

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号
伏見ライフプラザ13階(地下鉄伏見駅6番出口徒歩5分)
開館時間/午前9時30分～午後5時 入館料/無料
休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)
年末年始(12月29日～1月3日)

TEL 052-223-1066
FAX 052-223-4199
E-mail: a2231066@kankyokuyoku.city.nagoya.lg.jp

里地里山は、名古屋市内にはあるのかな?
都市化がすすんでいるからね。
今、「里地里山」が注目されているんだ。
そこに循環型社会の姿があるんだよ。
里地里山について考えてみよう。

いろいろな話題、お届けします。

特集
里地里山を考えよう!
身近にある自然「私たちに教えているもの」

エコパルNEWS
なごや環境大学
当館オリジナルクイズにチャレンジしよう!
伏見ライフプラザクイズラリー 他

里地里山を 考えよう!

～身近にある自然「私たちに教えているもの」～

里地里山は、むかしは人々の生活にとってなくてはならない自給自足の生活空間だったんだ。しかし、開発が進み、人々の生活様式も変わり、都市的な土地利用がすすむにつれ、里地里山が本来持っている機能が失われ、姿を消してきたんだ。しかし、地球温暖化などの環境問題が深刻化するにともない、里地里山の存在が見直されてきたんだね。

近年、里地里山は、多様な動植物の生息・生育空



間として、また、身近な自然とのふれあいの場、心安らぐ快適な空間、そして自然観察や環境教育のフィールドなどの場としてその価値が見直され、活用されているんだよ。

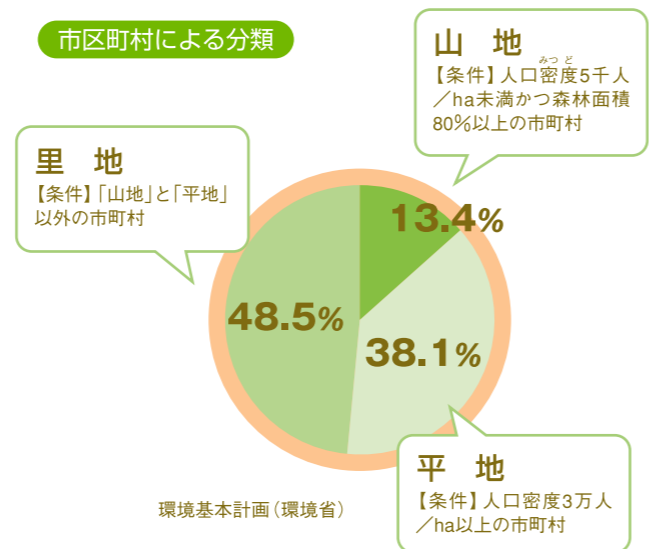
知る 里地里山って どんなところ?

環境基本計画(環境省)では、日本の国土を自然的条件に応じて「山地」「里地」「平地」「沿岸地域」という四つに分類しているんだ。日本の約半分は里地なんだね。(右図参照)

「里」とは、人家のある所とか、都会に対して田舎という意味があるんだ。里地里山は、山が茂り、ふもとはは棚田が広がり、小川のせせらぎが聞こえ、小鳥のさえずりが響き、トンボやホタルが飛ぶなつかしいふるさとの風景、そんなところなんだ。里地里山は、もともと人が自然に手を入れ、働きかけながら作り上げ、人々の生活と結びついた貴重な自然環境だったんだ。そこには、雑木林と水辺が複雑に入り組んだ様々な空間があり、鳥の餌になるカエルなどの水辺の生き物や昆虫がすんでいるんだ。オスはどうやってメスを呼び寄せるのか、また、生き物の卵はどうやって冬の寒さを防ぐのか、そして、カワセミが捕まえた魚を枝にたたきつけてから飲み込むシーンといった自然の営みが見られるなど、大自然ではない身近な本物の自然のすごさがそこにあるんだよ。子どもも大人も里地里山の自然のなかで、楽しんで遊び、学ぶことができる場所なんだ。

*環境基本計画＝環境基本法に基づき、新たな環境保全策のあり方を示す国の計画
*里地＝人口密度が比較的低く、人間の働きかけを通じた二次的自然(伐採などで、原生植生(一次林)が破壊されたあとに生じる森林などに見られる自然)が多い地域
*棚田＝山間の傾斜地に階段状に作られた水田。米の生産だけでなく、水資源の涵養などの多面的な機能をあわせもつ。石川県輪島市の「千枚田」などが有名

市区町村による分類



植物、動物の貴重な生息地

環境省の調査(RDB:レッドデータブック)によると、絶滅のおそれのある動植物が5種以上いる場所と「里地里山」といわれている場所が重複している所は、全体の約60%もあるんだ。里地里山は、希少種の生息・生育地として、とても重要なんだね。

里地里山との重複率

「新・生物多様性国家戦略」(環境省)

メダカ	69%	ギフチョウ	58%	トノサマガエル	62%
ノコギリクワガタ	53%	サシバ	65%	サンショウウオ類	65%

里地里山の今～どうなっている?

この里地里山には、キツネやタヌキ、ウサギやイノシシ、田んぼには、メダカやドジョウ、トンボにゲンゴロウなど、さまざまな生き物たちがいたんだ。しかし、どこにでもいたメダカは、近年著しく減少し、平成11年には絶滅のおそれがあるあるとされ、環境省レッドリストに加えられたんだね。私たちの生活と里地里山のかかりが絶たれて約40年も経過し、生活様式の変化や都市的な土地利用がすすんだことにより、荒廃・消失し続け、豊かな里地里山の自然も崩壊寸前の状況になってしまったんだ。

名古屋地域においてはもっと厳しい状況にあるんだね。しかし、東部丘陵の緑地では、まだその原風景の名残があり、名古屋市では、「オアシスの森」として保全に努めているんだ。

*レッドリスト＝絶滅のおそれのある野生生物の種を集めた一覧表

考える 里地里山は、 人とどのように関わっていた?

下草刈りや林床(森林の樹下の環境)に積もる小枝や落ち葉は、田畑を肥やし、山菜やキノコの生育を促すんだ。薪を取るために行う適度な枝払いした樹液に昆虫が群がり、土で造られた水路では、魚が捕れたんだ。作業と自然の恵みは切っても切れない関係なんだね。水辺は、放っておくと草や木が生い茂り、生き物はすみかを追われてしまい、雑木林も放置すればやがて林の中に下草が茂り、明るい林を好むギフチョウやカタクリなどが姿を消してしまうんだ。人は自然を自

里地里山にはどんな働きがある?

私たちがめざしている循環型社会を実現する場が、「里地里山」にあるんだ。里地里山を復元することは、循環型社会を作ることでもあるんだ。21世紀を迎えた私たちの暮らしには、自然と共生した地域の中での物の循環が否応なしに求められるんだ。21世紀を生き抜く知恵を与えてくれるのは、里地里山の暮らしと文化、自然との関わり方にあるんだ。里地里山の自然が失われると、多くの生物は生きる場所をなくし、生活している環境は貧しくなって、うるおいも欠けていくんだ。みんなで里地里山の自然のことをもっともっと考えよう!

里地里山の原風景

里地里山の原風景は、心象(意識に浮かんだ姿)風景のなかで、原体験(人の思想形成に大きな影響を及ぼす幼少時の体験)を思い起こさせるイメージなんだ。集落地、水田・ため池、果樹園、菜園、桑畑、小川、草原、湧水地などが、一体となった風景なんだ。しかし、子どもの頃体験していなければ思い浮かばないね。未だ日本の土地利用の半分近くは、この里地里山なんだ。いちど体験してみるといいね。環境問題を理解し行動するには、この里地里山の自然と遊び、楽しみ、自然の営みを知って、自然の素晴らしさを感じる事が大切なんだよ。



分たちの生活に上手に取り入れながら、暮らしてきたんだね。里地里山は、「人間の手によりつくられた自然」なんだ。

私たちの生活のなかで、里地里山がどう関わってきたかは、かつては生産的価値や恵みを人間社会に与えてくれていたところから、人間の勝手な行動で壊してしまい、今では自然教育の場とか、健康づくりのスポーツの場として注目されてきているんだよ。

*ギフチョウ＝アゲハチョウ科のチョウ。本州の固有種で、幼虫はカンアオイ類の葉を食べる
*カタクリ＝ユリ科の多年草。山野に自生。早春に紅紫色6弁の美しい花を開く。

里地里山のはたらき

資源を生産している

薪をつくる、炭焼をする、しいたけを栽培する、養蜂・蜂蜜を生産する、わさびを栽培する、溪流魚を養殖する

循環している

湧水、木質燃料や家畜の糞尿を嫌気醗酵、糞尿や落ち葉の堆肥づくり、生ごみの堆肥化など

水を涵養し、浄化している

木々の落ち葉が腐葉土になり、保水力が増し、浄化する

土砂の流出や崩壊を防止している

木々が茂ることで、根の伸張が盛んになる

大気の浄化や

都市型気候を緩和している

木々の炭酸同化作用、呼吸作用、蒸散作用がはたしている

地域の文化を伝承している

その土地ならではの田植え、神事、祭りなどを伝える

多様な植物や動物が 共存・共生している

「食べる・食べられる」の関係があり、生命のつながりがあり、バランスがとれている(食物連鎖)

レクリエーションや 交流の場になっている

新しい価値を見出す

環境学習の場になっている

新しい価値を見出す

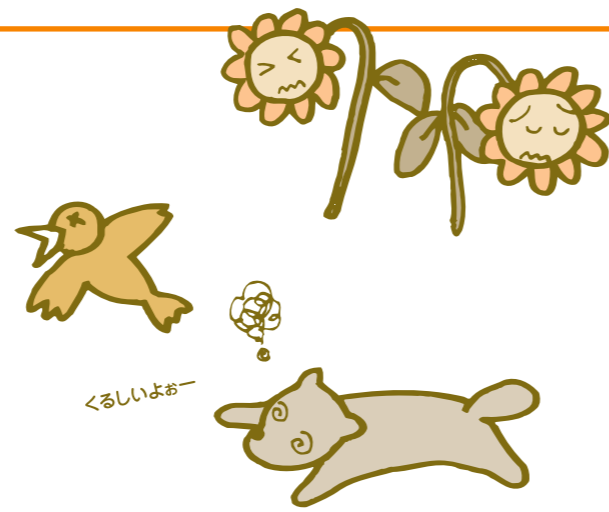


いろんな役割があるんだね

今!なぜ見直されている?

里地里山の機能が崩壊することにより、その影響は、化石燃料が枯渇することや温暖化が深刻化すること、化学肥料などによる土壌のはたらきが失われていくこと、また、さまざまな植物や動物が死に追いやられること、さらには、人口増加とか砂漠化がすすむことなどと絡んで食糧が不足する問題へとつながっていった。

身近な自然を大切にするとともに、一人ひとりがさまざまな環境問題に取り組むことが求められているんだ。21世紀の社会が目指す姿が、里地里山の生活の中にあるんだね。



松枯れが生じるのはなぜ?

北半球には約100種もの松があるといわれているんだ。雌雄同株で、アカマツとクロマツの材は、建材、器具、薪炭、パルプなど種々の用途があるんだ。また、たいまつや松やにとしても使われてきたんだ。

松枯れの原因は、マツノマダラカミキリが病気をうつすマツノザイセンチュウ病なんだ。しかし、松枯れは、肥沃した土地では激しく、痩せ地に近い所では、枯れにくいんだ。里山に依存している農業形態では、里山から肥料や燃料を持ち出すことになり、松林の土地が肥えることが抑え

られ、痩せ地に近い状態が維持されるんだ。松はもともと痩せ地や乾燥地に適応している樹木なんだね。なぜそのような恵まれない環境でも、あのように堂々と育つのかというと、「菌根菌」と共生して育つという松独特の生存システムによるんだ。

※たいまつ＝松のヤニの多い部分に点火して、屋外の照明用とした。
 ※松やに＝松(特にクロマツ)の幹から分泌する樹脂。黄色でワニスの製造、製紙・石炭工業に使用。
 ※菌根菌＝植物にとって有益な微生物で、植物と絶対的な共生関係にあり、病気を抑える働きを備えている。化学肥料や農薬を多く使うようになって、畑から姿を消すようになっている。炭は菌根菌のよい住みかになるといわれている。

守る — よみがえる里山 ～どうしたらいいの?

里地里山は、人が暮らす場であると同時に、さまざまな機能をもっているんだ。懐かしい景観は、都市に住む人々のいやしの場としても、また農業を体験したり、自然観察などのエコツーリズムやグリーンツーリズムなどの体験型の学習ができる場所でもあるんだ。

しかし、このように人々と関わっていきけるには、管理がきちっと行われていることが重要なんだ。雑木林を守るには柴刈り、間伐、落ち葉かきといった手入れがあるということだね。萌芽更新といって古木を伐採し、林床に適切な光環境を整えることも大切なんだ。多

様な生態系の復元には、少なくとも数十年はかかるんだ。里地里山のことを知って、樹林地を大切に、「里地里山のはたらき」で見た、さまざまに結びついた社会を実現していく場としての里地里山を絶やさず守っていこう。

※エコツーリズム＝地域の環境や生活文化を壊さずに自然や文化に触れ、それらを学ぶ目的でさまざまなところへ出かけること
 ※グリーンツーリズム＝都市住民が農村に長く滞在する休暇(農村休暇法(1994年制定)に基づく農家民宿の登録制も行われている)
 ※萌芽更新＝切り株や根から新しい芽(「萌芽」もしくは「ひこばえ」と呼ぶ)が伸びてきて、森林を造成する手法。10～20年で伐採する薪炭林(クヌギ、コナラ、シイ、カン類)に適している。

クイズに挑戦!

正しいものはどれでしょう?

Q1 里地里山は、国土の何%を占める?
 ①約20% ②約50% ③約70%

Q2 次のうち環境省のレッドリスト「絶滅危惧種」に指定されているのは?
 ①ニホンオオカミ ②トキ ③オガサワラオオコウモリ

Q3 日本の国土の67%は森林地帯です。人工林は、その内約何%を占める?
 ①約16% ②約41% ③約62%

Q4 ビオトープの発祥地は?
 ①イギリス ②アメリカ ③ドイツ
 ※ビオトープ＝生息場所という意味の言葉。具体的には、池を作り、草木を植え込み、自然に昆虫や魚や小鳥が戻るようにすること。

Q5 日本の国立公園の総面積は、日本の国土面積の何%?
 ①約1.2% ②約5.4% ③約11.7%

里地里山を生かす

近年、農業形態の変化や燃料革命により、また都市化の進展や高齢化など社会構造の変化によりその維持が困難になってきたんだ。里地里山を維持していくためには、土地をどうやって確保するかとか、維持管理活動や技術指導をどうするかといった問題もあるんだ。人による自然への働きかけを継続していくことが必要なんだね。その労力をどのように確保していくかが大切になるんだ。

「第一次産業の場」でもあった里地里山の身近な自然を、地域づくり・人づくりに役立てていくことが大切なんだ。実際には、民間団体が、特定の里地里山をフィールドとして、自然観察や農業体験を中心とした活動の一環として保全活動をしているんだ。多くの生物の生息場所として、また自然とのふれあいの場として大切に保全し、文化の伝承につなげていくことも大切だね。

※第一次産業＝産業のうち、農業、林業、水産業など直接自然に働きかけるものをいう

実践的取り組み「オアシスの森」づくり

名古屋市の東部丘陵に残っている樹林地は、都市化がすすむなかで「身近な自然」として貴重な存在になっているんだ。しかし、人の手が入らなくなり、陽のあたらない暗く荒れた森になっているんだ。そこで、民有樹林地の割合が大きいことから、市民と行政が一緒になって、荒れた森を育てていく試みが「オアシスの森」づくりなんだ。

「オアシスの森」は、公園や緑地の区域内の樹林地等によって形成されているまとまりのある土地で、散策路やベンチの整備により、市民の利用にふさわしい一定の区域を対象にしているんだ。名古屋市域では、猪高緑地、相生山緑地でこの「オアシスの森」が開園し、荒池緑地、東山公園で準備をすすめているんだ。

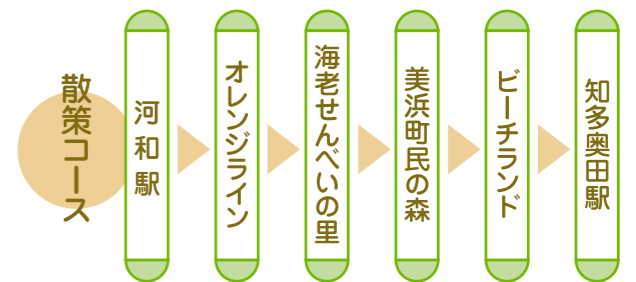
「オアシスの森」第1号である相生山緑地では、「オアシスの森くらぶ」を立ち上げ、会員の方たちが柴刈り大会や竹の除伐、森や動物の観察調査などの活動をしているんだね。(これに関する問い合わせは、緑政土木局緑地施設課 972-2484へ)

近隣で里地里山の原風景が体験できるところ

「木の実の森づくり」

愛知県美浜町

「日本の里地里山30」保全コンテストに選ばれる。全国里地里山大会が、2005年5月に開催された。こどもエコクラブの里山づくりなどの地域づくりや広場づくり、炭焼きなどの活動をすすめており、メダカやササユリなどが見られる。



クイズに挑戦!

こたえ

A1 ② 全国の市町村の内、里地に分類される市町村の割合は、全体の48.5%である。(環境省「環境基本計画」の分類から)

A2 ③ ニホンオオカミは、すでに絶滅している。トキは飼育下でのみ存続している。野生絶滅種に指定されている。

A3 ② 森が効率的に二酸化炭素を吸収するためにも、約41%を占める人工林においては、生長した木を伐採し、新たな苗を植えるというサイクルを崩さないようにしていくことが大事である。

A4 ③ ビオトープによる自然多元運動は、1970年にドイツで始まった。

A5 ② 日本の国立公園の面積は、2,061,040ヘクタールで、国土面積に対する割合は5.4%を占めている。(環境省「自然公園面積総括表」)

調べよう

里地里山をもっと理解するために、ホームページで調べてみよう。

愛知県美浜町「木の実の森づくり」 http://satochi.net/kodomo_05.html

里地ネットワーク http://satochi.net/project_01.html



エコパルNEWS

なごや環境大学

エコパルスクール

参加者募集

小学校4年生から6年生の児童を対象に、野外体験を通して自然と私たちがかわりを学び、自然と環境について関心を高める講座です。今年は「知ろう水の大切さ! 守ろう水!」をテーマに野外体験を通して、水と私たちの生活との関係を考え、水の大切さを知り、環境にやさしい行動をするためのヒントを学びます。

- ◎募集人数 / 40名 (応募多数の場合は抽選)
- ◎費用 / 9,800円
- ◎申し込み方法 / 電話、ハガキ、FAX、E-mail
- ◎全4回、全日程参加が原則です。

日時(曜日)	場所・会場	日時(曜日)	場所・会場
7月28日(金)	海上の森	9月30日(土)	庄内川
8月17日(木)~19日(土) 2泊3日	茶臼山高原	10月28日(土)	新舞子と 中部国際空港



なごや環境塾

お知らせ

環境問題の解決は、私たちの身近な取り組みから始まります。地域で環境保全活動を行う指導的役割を担う人材を育成するため「なごや環境塾」を開催します。募集や講座内容など、詳しくは「広報なごや8月号」をご覧ください。



くらしの環境セミナー

参加者募集

環境問題は、私たちの暮らしと大きくかかわっています。このセミナーでは、講演や実習などを通して、家庭でできる環境にやさしい暮らし方について学びます。詳しくは「広報なごや6月号」をご覧ください。

- ◎募集人数 / 40名 (応募多数の場合は先着順)
- ◎費用 / 1,500円
- ◎申し込み方法 / 電話、ハガキ、FAX、E-mail
- ◎全5回、全日程参加が原則です。



なごや環境大学ガイドブック2006春

紹介

「まちじゅうがキャンパス」を合言葉に名古屋市域の各所で開催している「なごや環境大学」では、地球環境問題から身近な自然環境まで幅広い分野の講座を展開しています。講座の内容、スケジュールについては、「なごや環境大学ガイドブック2006春」をご覧ください。区役所、図書館や下記の場所で入手(無料)できます。詳細はお問い合わせが、「なごや環境大学」ホームページをご覧ください。

- ◎なごや環境大学実行委員会事務局(名古屋市環境学習センター〈エコパルなごや〉内)
毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)は休み
TEL・FAX052-223-1223
- ◎「なごや環境大学」ホームページ <http://www.n-kd.jp>



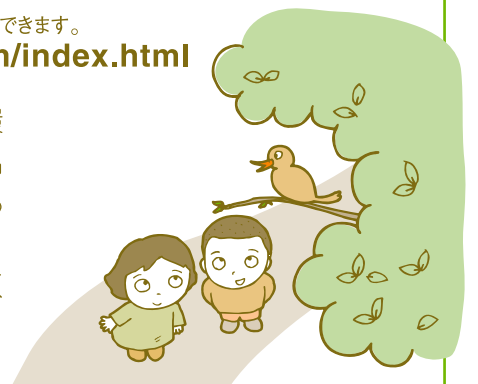
プログラム紹介

野外体験型環境学習プログラム

プログラムの詳細をインターネットからPDFファイルでダウンロードできます。
<http://www.ecopal.city.nagoya.jp/program/index.html>

環境学習において、野外で自然とのふれあいを通じて体験しながら環境に関する学習を行うことは、非常に大切であり効果的です。そこで、名古屋市周辺の身近な自然の中で、野外体験により環境について学習することができる「野外体験型環境学習プログラム」を作成しています。

このプログラムを、学校や地域など様々な環境学習の場において広くご活用いただければ幸いです。



テーマ
緑

活動場所
大高緑地

〈プログラム内容〉

プログラム名	「自然のしくみを理解する」
内 容	大高緑地で自然観察や工作等の野外体験をしながら学ぶプログラムです。「大高緑地のエコプラン」、「里山管理と雑木林」、「自然にやさしいディキャンプ」の3種類のプログラムを作成しました。
対 象	小学生~大人
プログラム数	3

お知らせ

当館オリジナルクイズにチャレンジしよう!

毎週土・日曜日と祝日には、環境クイズ「地球を救え!」にチャレンジして、環境について学びましょう。毎月2問(毎月問題は変更します。)出題し、6問正解ごとに景品をお渡しします(景品は6月、9月、12月、3月に配付します)。参加証に記録するので大切に持っていてね。

伏見ライフプラザクイズラリー

伏見ライフプラザ内の下記施設をまわって、クイズに挑戦しよう。毎月出題される5問のクイズに答えると参加賞がもらえるよ。毎月第2土曜日(9時30分~15時30分)開催。

- ◎ボランティア・NPOセンター
- ◎高年大学
- ◎消費生活センター(くらしの情報プラザ)
- ◎中消防署

ライブラリーからこんにちは

図書情報

里山を考える101のヒント

(社)日本林業技術協会編

「里山って何だ」という疑問に、単なる懐古趣味でなく、地球規模での環境問題とまで大げさに構えないで、気軽に読める一冊です。



里山の定義と歴史	絵画の風景、生活エネルギーとしての薪炭、暮らしの中の里山など。
里山の立地・環境	溪流と森林、おいしい水、防災機能、心地よい香りなど。
里山の動植物	雑木林とスズメバチ、希少動物としてのメダカ、田んぼは水生昆虫のゆりかご、植物の多様性、身近な森林を教育の場になど。
里山の活用	宝の山、里山で遊ぶ、落ち葉の利用、木を植えて魚をふやすなどについて記述されている。

図書・ビデオ貸出のご案内

エコパルなごやでは、環境に関する約3,000冊の本や、ビデオを揃えています。是非ご利用ください。初めてご利用の方には、「図書利用者カード」を発行します。名古屋市在住、在学、在勤の方なら、どなたでも登録できます。詳しくは、エコパルなごやまでお問い合わせください。

- 図書 1回につき2冊まで。
貸出期限: 2週間
- ビデオ 1回につき1本。
貸出期限: 1週間

